



令和元年 5月 16日
第438号
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

褒められ認められ嬉しかった！

校長 高橋 祐二

5月1日、「令和」の時代の幕開けとなりました。「令和」の名称には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。」という願いが込められているようです。学校も、子どもたち一人一人が他を尊重し合いながら、共に未来へ向かって協働し力強く歩めるような場でありたいと感じています。

さて、今年度の運動会が間近となりました。連日、子どもたちは応援練習や種目練習など、全校一丸となって練習に取り組んでいます。子どもたちの練習の様子を眺めると、生き生きと取り組んでいる子が大勢いる反面、中には顔を曇らせている子もいます。みなさんは、子どもたちのころ、運動会は楽しみな行事でしたでしょうか？それとも、避けたかった行事でしたでしょうか？

私の教え子にK子さんという子がいました。Kさんは、とても運動を苦手としており、徒競走では、毎年最下位のほうでした。ですから、Kさんにとって運動会は、大嫌いな学校行事でした。練習が始まる時期になると、学校へ登校することを渋ったり、表情が暗くなったりする子でした。私は、彼女に、「自分の力で精一杯走ればいいんだよ。順位なんて関係ないからね！」と励ましの言葉をかけていたものの、本人からすれば、何の慰めにもならなかったことと思います。そんな、Kさんの気持ちを何とかしたいと思案していると、こんな出来事がありました。それは、運動会の応援パネルを6年生が作成することになっており、級友がKさんに作成してほしいと声を出したのです。彼女は、運動は苦手だったものの、絵を描くことが大好きで、特に創造的な絵やイラストを描くことに秀でていたことを級友は認めていたのです。

最初、級友の依頼に戸惑っていたものの、私からの後押しもあり、彼女を中心としてパネルが作成されることとなりました。休み時間や放課後など、彼女は嬉々として筆を走らせパネルの絵を描きました。十日ほどで完成したでしょうか。龍が空へ舞い上がる勇ましい絵でした。級友たちは、完成したパネルに感嘆し口々に「カッコいい！」「すげえ〜」と声を漏らしていました。そして、他の子どもたちからも、労いと称賛の声をかけられ、Kさんの表情は徐々に明るくなり、運動会当日を心待ちにするようになりました。

運動会当日、Kさんは徒競走において、やはり最下位でした。しかし、ゴール後、彼女の表情は例年と違い晴れ晴れとした表情でした。私は、そんな彼女の表情をととても嬉しく思い、運動会終了後、彼女に聞いてみました。

「K子さん、100m走ったけど、今年は何か違う感じがしたんだけど？」

すると、彼女はこんなことを私に話をしてくれました。

「私は、運動することが苦手で、特に、走ることは大嫌い。だから、運動会も大嫌い。でも、今年の運動会は違ったよ。理由は、パネルを描いて、みんなから褒められて、とても嬉しかったから。走って、ビリだったけど、今年の運動会は楽しかったよ。」

と笑顔で誇らしく話をしてくれました。

人は、誰もが、すべてがよく出来て、すべてをよく理解しているわけではありません。得意なこともあれば苦手なこともあるでしょう。苦手なことを悲観するようなこともあるかもしれませんが、そんな自分も自分で受け止め、自分の得意なこと興味のあることを伸ばしていける人であって欲しいと願っています。そのためには、周りも人が努力して取り組んでいることに、「すごいね！」「さすが！」「すてき！」「すばらしい！」と称賛する「4S」の言葉かけが大切だと思います。人から、褒められたり認められたりする経験があれば、生きていく上での自信となり前向きに努力する意欲へつなげるのではないのでしょうか？

運動会当日、一人一人のドラマがあることでしょう。子どもたちが、それぞれ頑張っている姿に、是非とも熱い応援を宜しくお願いいたします。きっと、一人一人が輝く運動会になると思います。